

タンネウシ



02月号

タンネウシはアイヌ語で「長い・木の・群生しているところ」。博物館付近の地名です

第39回特別展開催中 知床の森のひみつ～人とクロテンとシデムシのつながり

クロテンは森で死んだらどうなるのでしょうか？ 森の生き物たちの糞はだれが片づけているのでしょうか？ 人々は昔から知床の森で動物たちをどうやって捕まえ、どのように利用してきたのでしょうか？ 知床で失われてしまった動物とは？ この特別展では、人も含めて生き物たちのつながりの不思議をさぐり、知床の森にかくされたひみつをちょっとだけ紹介しています▶期間：3月11日(日)まで▶場所：交流記念館ホール▶特別展のみの観覧は無料。



連続講演会「森のうちあけ話」

特別展に関連する講演会を開催します▶参加無料▶場所：博物館2F映像展示室▶時間：18：30～20：00▶要申込み

(1) ひみつを知るとすきになる!?

昆虫のくらしとつながり

シデムシなどのあまり知られていない昆虫のくらしや、ほかの生き物とのつながり、実は深い(!) 人との関わりなどを紹介します。面白い生態

や大切な役割、人との意外な関係など、「ひみつ」を知ると、苦手な人も、少しだけ昆虫が好きになるかも!?

▶2月13日(火)▶講師：伊藤 彩子(帯広百年記念館)

(2) オホーツク人と森の動物たち



オホーツク文化は海獣狩猟文化ともいわれ、オホーツク人は海での猟を盛んに行っていました。一方で森も大切な生活の舞台で、そこで得た動物をまつることもしていました。オホーツク人と森の動物たちとの関わり、当時の暮らしぶりや精神世界を紹介します▶2月14日(水)▶講師：内山 幸子(東海大学)

(3) 森の鳥のひみつ

自然の中に無駄なモノは何一つありません。すべてのモノが複雑に関係しあって成り立っているのが生態系です。知床の森にすむいろいろな鳥たちの暮らしぶり、彼らの複雑なつながりを、わかりやすく解きほぐしながらご紹介いたします▶2月15日(木)▶川崎 康弘(野鳥の会オホーツク支部)



(4) ひみつがいっぱいクロテンの森

クロテンは森と深く関わって生きています。まだナゾも多いですが、森のなかでの暮らしぶりをお話します。あわせて、キツネ、タヌキ、イタチ類からダニまで、クロテンとつながりのある生き物たちのことも少しずつお話します▶2月16日(金)▶村上 隆広(知床博物館)



今月の学芸員のイチオシ!



剃刀 本来の用途であるヒゲ剃りとして使う人はもう稀かも。フェザー剃刀S両刃(炭素鋼)はコケ植物の薄い切片をつくるのに欠かせません。実体顕微鏡をのぞきながら手に持ち、コケを輪切りにします。慣れないうちはよく手が血まみれになるので注意。(内田)

休館日 2月の休館日は、5・12・19・26日の月曜日と、11日(祝・日)です。

編集後記 特別展では、自然を題材にした双六ができます。オオカミのはく製が迫力満点! あかしのぶこさんの新しい絵本「ふぶきがやんだら」1月29日入荷予定、420円。(ひら)